

(様式1)

教育研究業績書

2026年5月1日

氏名 鈴木 浩美

研究分野

学位

基礎看護学

修士（放送大学大学院）

研究内容のキーワード

基礎看護技術、基礎看護教育、病院・医療管理学

教育上の能力に関する事項

事項

年月日

概要

1. 教育方法の実践

療養援助技術、生活援助技術

2025年

技術修得には講義・演習とのつながりを重視し、特に療養生活を送る人の立場に立ってその人の生活支援を意識できるよう教授した。可能な限り学生個々の学習内容や興味関心、達成度などに柔軟に対応できるように実践し、教授活動の質の向上を図った。

ヘルスアセスメント

2025年

「ヘルスアセスメントⅠ」「解剖学」等の既習科目とのつながりを大切にし、基盤となる健康や看護のとらえ方や、アセスメントの思考技術について、繰り返し提示しトレーニングの積み重ねを導いた

基礎ゼミナール

2025年

大学での学びについて、ゼミナールにおける個とグループでの実践を通じて指針を得ながら、主体的な学修姿勢・方法を身につけられるようかかわった。フロレンス・ナイチンゲールの『看護覚え書』を素材にした講読と学びの発表を積み上げながらゼミナールを展開した。

基礎看護実習、看護援助実習

2025年

1年次基礎看護実習では療養生活を送る対象を理解すること、2年次の看護援助実習では療養生活を送る対象を受け持ち看護過程を用いて看護援助を行うよう指導に努めた

総合実習

2025年

患者支援センターでの見学実習も含め、退院後の生活を見据えた上で、患者とその家族の意思を尊重しながら、相互に協力して、より良い生活を実現するために必要となる生活の再構築や調整について検討し、実施をできるよう調整、指導を行った。

患者学

2025年

病を持つ当事者や家族の方を講師として迎え、生活や思いを直接聞くことで、初學者の学生が病を持つ人の内省の言葉から看護をめざすものとしての自身の考えがもてるように実施した。

卒業研究

2025年

ゼミ形式で研究課題を明らかにするディスカッションを重ね、他者からの学びを生かして自分の意見を持つことの重要性を意識して教授し、学生の研究に取り組む動機となった経験等を大切にしながら指導を行った。

職務上の実績に関する事項

事項

年月日

概要

1. 資格、免許等
看護師

1986年4月24日

2. 所属学会
看護科学学会、看護技術学会、看護管理学会

3. その他		
科学研究費助成金 基盤研究 (C) 外国人医療人材への支援プログラムの構築—外国人技能実習制度の活用に向けて—	2018年～2021年	研究代表者：井野恭子 研究分担者：鈴木浩美
科学研究費助成金 基盤研究 (C) 在宅介護を担う家族に向けた痰吸引のVR教材の開発	2025年～	研究代表者：渋谷寛美 研究分担者：齋藤昭子、渋谷賢、麦山真純、鈴木浩美

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 看護における広報戦略—患者が必要とする情報提供の課題と展望—	共著	2011	医学書院, 看護管理, VOL. 21 No. 12, p. 1083-1089	鈴木浩美・大串正樹。患者の視点に立った、安全・安心で質の高い医療のために患者が必要とする看護の情報提供が行われているのか、現状を考察した。
2. 戦略論 病院の特徴を見極め競争優位をつくりだす[8つのマネジメント理論を解決できる 毎日の病棟管理最強レシピ]	単著	2010	メディカ出版, ナーシングビジネス, 夏季増刊, 158-165	看護師長を対象とした病棟管理の基礎となる看護師長の課題・解決手法を裏付けるマネジメント理論「戦略論」を担当。
(学術論文)				
1. 市民の健康・福祉ニーズに応えるインターネット相談の効果と限界・IPWの可能性	共著	2011	保健医療福祉連携, 4巻1号, p1-10.	唐田順子・萩田邦彦・奥山恵理子・鈴木浩美。インターネット相談「介護110番」の事例を分析し、インターネット相談の効果と限界を明らかにし、IPWの可能性を考察した。
2. 介護老人福祉施設における外国人介護労働者受入れの現状—第1報—	共著	2022	愛知県看護教育研究学会誌, 第25号, p4-11	井野恭子・鈴木浩美(査読あり)。関東地区3都県および東海3県にある介護老人福祉施設を対象に外国人介護労働者の受入れの現状を調査し、考察をした。
3. 介護老人福祉施設における外国人介護労働者受入れへの管理者の認識 —第2報—	共著	2022	愛知県看護教育研究学会誌, 第25号, p12-20	鈴木浩美・井野恭子(査読あり)。関東3都県および東海3県にある介護老人福祉施設の施設管理者を対象とし、外国人介護労働者の受入れに対する施設管理者の認識の調査を行い、考察した。
(学会発表、講演など)				
1. 看護学部1年生の看護技術演習に住民ボランティアが参加する意義と意思	共著	2015	日本看護教育学会, 第25回学術集会, p209.	鈴木浩美・高橋公子・小寺栄子・山崎美智子。ヘルスアセスメントの授業に患者として参加した住民ボランティアの意義や意思について考察した。
2. 地域住民がボランティアとして参加するヘルスアセスメント演習の効果—学生の学びの一考察—	共著	2015	日本看護教育学会, 第25回学術集会, p210.	高橋公子・鈴木浩美・小寺栄子・山崎美智子。ヘルスアセスメントの授業に住民ボランティアが患者役を行い、演習を行った学生の学びについて考察した。
3. 術後1年以内に就労した大腸がん患者の看護介入ニーズ	単著	2013	日本看護技術学会第12回学術集会講演抄録集, p127.	鈴木浩美・渡邊順子。術後1年以内の大腸がん患者が就労開始後は食事と排便の関係や通勤時の排便障害による不安、気持ちと体力にギャップ等に看護介入を求めている。
4. 大学看護学部における「ホスピタリティ」教育の評価に関する研究—A大学看護学部卒業生のインタビューから—	共著	2022	日本看護管理学会, 第26回学術集会抄録集	井上寛隆・大賀明子・笠井翔太・鈴木浩美。A大学看護学部が教育の中で重要と位置づけているホスピタリティおよび、その教育を受けて看護職に就いている卒業生の中にある成果について考察した。
5. ホスピタリティ教育の評価に関する研究—看護の対象となる人々が看護実践に求め、期待するホスピタリティを明らかにするとともに、市民と看護職者の差異を比較し考察した。	共著	2022	日本看護科学学会, 第42回学術集会抄録集	大賀明子・笠井翔太・井上寛隆・鈴木浩美。市民と看護職者が、看護実践に求め、期待するホスピタリティを明らかにするとともに、市民と看護職者の差異を比較し考察した。
6. With コロナ時代における「患者学」教育での学生の学び	共著	2022	日本公衆衛生看護学会第11回学術集会.	鈴木浩美・尾崎美恵子・飯塚ちひろ。コロナ禍においてA大学の患者学を受講した初年次学生が、疾患を抱えた患者や家族のリアルタイムでの遠隔授業を受けて、どのような学びが得られたか考察した。